

令和6年2月20日

中野市議会

議長 原澤 年秋 様

中野市議会 議会改革検討委員会

委員長 塚田 一夫

中野市議会第6代前期議会改革検討委員会最終報告について

令和4年5月中野市議会臨時会において、議会改革検討委員会に係る議案が可決され、8人の委員による第6代前期の議会改革検討委員会が設置されました。

以後、6回に渡り委員会を開催し、議会改革について検討を行ってきました。

これまでの検討事項等につきまして、別紙のとおり取りまとめましたので報告いたします。

中野市議会 第6代前期議会改革検討委員会最終報告

1 議会改革検討委員会の開催状況及び検討内容について

	開催日	検討内容
—	令和4年5月1日	臨時会において、議会改革検討委員会の設置及び委員の構成について議決された。
第1回	令和4年7月25日	・正副委員長の互選について ・議会改革検討項目の決定と今後の進め方について
第2回	令和4年9月30日	・議会改革検討事項について
第3回	令和4年12月26日	・一般質問の答弁書を事前に質問議員に渡す件について ・タブレット端末等活用したペーパーレス化の推進について ・報酬の見直しについて ・定数の見直しについて ・議員の賛否結果の公開について
第4回	令和5年3月30日	・一般質問の答弁書を事前に質問議員に渡す件について ・定数の見直しについて
第5回	令和5年8月7日	・委員長の互選について ・定数の見直しについて ・タブレット端末等活用したペーパーレス化の推進について
第6回	令和6年1月29日	・定数の見直しについて ・報酬の見直しについて ・全員協議会の案件資料は、原則、事前配布について ・タブレット端末等活用したペーパーレス化の推進について ・第6代前期議会改革検討委員会の最終報告について

2 議会改革検討事項について

第5代後期議会改革検討委員会における継続検討希望事項及び第6代前期議会改革検討委員会における新たな議会改革に関する事項について優先順位を定め検討を行いました。

第6代前期議会改革検討委員会において検討した事項は、次のとおりです。

(1) 方針を決定した検討事項

① 議員の賛否結果の公開

「開かれた議会」が求められるなか、市民の代表である議員の考え方等を示す観点から本会議における議員の議案に対する賛否結果を公表していくこととし、議長へ申し入れることに決定しました。

なお、議長に申し入れた後、議会運営委員会において協議がされ、本検討委員会で決定したとおり、令和5年3月中野市議会定例会から公表することとしました。

② タブレット端末等活用したペーパーレス化の推進

5代前期から検討を進めてきましたが、6代の任期中にタブレット端末を導入する方針を決定しました。

なお、運用方法等については、市長部局と調整しながら、引き続き検討していくこととしました。

③ 一般質問の答弁書を事前に質問議員に渡す件について

事務局と市長部局との協議において、市長部局側から事前に答弁書を渡すことは困難であるとの回答があり、市長部局側の事情を理解するべきとの結論から、本検討委員会での検討を終了としました。

④ 全員協議会の案件資料は、原則、事前配布について

事務局と市長部局との協議において、市長部局側から事前に資料を渡すことは困難であるとの回答があり、市長部局側の事情を理解するべきとの結論から、本検討委員会での検討を終了としました。タブレット端末の導入により、会議資料等についてもデータ化される見込みであることから、その時点であらためて市長部局と協議していくこととしました。

なお、市長部局に対し、協議事項の概要を示した資料の提供について申し入れることとしました。

⑤ 議員定数の見直しについて

議員定数の見直しについては、無投票となった平成30年4月の一般選挙をうけ、第5代前期から検討を始めました。本委員会では、第5代後期議会改革検討委員会からの「令和4年4月の選挙結果を踏まえ検討」との申し送りを受け、検討を進めました。

ア 本委員会における主な意見

(ア) 議員定数を現状維持とする意見

- 広く市民の意見（多様な意見）をくみ取るためには一定の人数が必要。
- 人口が減っている地域とまちなかでは人口格差がある。それぞれの地域の声を拾うには、現状の20名が適当。
- 前回の選挙で立候補22名となった。まだ同数で運営してもよいのではないか。
- 過去の研修会でも、委員会構成は7人～8人が妥当とのことであり、20人というのは標準よりも少ない。また、面積、人口での計算でも現状が妥当だと考える。
- 投票率が非常に低い状況で定数を減らせば、さらに議会が遠い存在になる。
- 当選ラインが上がり、かえって若い人が出馬できないのではないか。

(イ) 定数削減をすべきとする意見

- 全国的にも、人口5万人ほどの都市が20人ぐらいの定数である。1割ほど削減してもよいのではないか。
- 県内をみても、人口に比べ定数20人は多い。中野市も人口が4万人をきると言われる中で、今のうちから議員定数を考える必要がある。
- 各委員会6名で構成し、そこに議長1名の19名が妥当ではないか。

(ウ) その他の意見

- 将来的には、削減が必要であると考え。令和12年の選挙では、定数削減を検討すべき（定数2減）。
- 市民から議員を減らしてもよいのではないかという声があることは承知しているが、市民に議員の活動が見えていないことが原因の一つ。定数の議論も重要だが、議会のあり方、議員個人がなにをすべきかという根本的な議論も必要。

イ 本委員会としての検討結果

本委員会 8 名のうち 6 名が現状維持との意見、2 名が定数削減との意見であり、最終的に、委員会としては、引き続き検討を進める課題はあるものの、令和 8 年の次期一般選挙においては、定数 20 名の現状維持との意見が多数を占めました。

ただし、定数の見直しについては、人口減少を踏まえ将来的には定数を削減すべきとの認識があることから、本委員会での検討結果や令和 6 年 11 月に実施される補欠選挙の状況を踏まえ、議会全体で協議をしていただくよう要望します。

(2) 継続検討事項

第6代後期において、議会改革検討委員会が設置される場合にあっては、次の事項について検討していただきたい。

なお、第6代前期における各事項の検討状況は、以下のとおりです。

項 目	検討内容・意見
(1) 報酬の見直し ① 会議等（議会本会議・委員会等） を長期欠席した場合の報酬等の取 扱い	実施自治体の事例などを研究し、引き続き検討してほしい。
(2) 報酬の見直し ② 報酬の増額検討	中野市特別職報酬等審議会の答申を踏まえ、引き続き検討してほしい。
(3) 報酬の見直し ③ 各種手当の創設	委員長報酬の創設など、他の自治体の事例を研究し、引き続き検討してほしい。